

公共事業再評価事業別調書

担当所属	県土整備部 都市計画課
再評価実施要件	未着手 長期継続(国土交通省10年) その他( )

1 事業の概要

事業種別	下水道事業	事業主体	県 市町村 その他( )					
事業名	特定環境保全公共下水道事業	地区名等	十和田湖町 焼山地区					
事業区分	補助事業 単独事業	負担区分	・町事業 処理場(高率) 国55%:町45% 処理場(低率) 国50%:町50% 補助対象管渠 国50%:町50% 単独管渠 町100% ・県代行事業 処理場(高率) 国55%:県 13.5%:町31.5% 処理場低率 国50%:県 15%:町35% 補助対象管渠 国50%:県 15%:町35%					
採択年度	H5年度(用地着手H6年度, 工事着手H6年度)							
終了予定	全体計画 H17年度(H11年3月計画変更<計画時 H14年度>) 認可計画 H17年度(H11年3月計画変更<計画時 H11年度>)							
事業目的	焼山処理区を対象に下水道の整備を行い、「生活環境の改善」及び「公共用水域の水質改善」を図る。							
主な内容	公共下水道計画 全体計画(当初計画) 汚水処理区域面積43ha、事業費1,615百万円、整備済面積34ha (現計画) 汚水処理区域面積43ha、事業費2,512百万円、整備済面積34ha 認可計画(当初計画) 汚水処理区域面積25ha、事業費 935百万円、整備済面積25ha (現計画) 汚水処理区域面積43ha、事業費2,512百万円、整備済面積34ha							
事業費	採択時総事業費 1,615.0 百万円(当初全体計画) 単位:百万円							
		~H11年	H12年	H13年	H14年	小計	H15年~	合計
現計画 (うち用地費)	全体計画	1,770.4 (3.7)	122.1	124.0	124.0	2,140.5 (3.7)	371.5	2,512.0 (3.7)
<平成11年3月変更>	認可計画	1,770.4 (3.7)	122.1	124.0	124.0	2,140.5 (3.7)	371.5	2,512.0 (3.7)
実績 (うち用地費)	全体計画	1,594.2 (3.7)	135.0	188.0	175.2	2,092.4 (3.7)	419.6	2,512.0 (3.7)
	認可計画	1,594.2 (3.7)	135.0	188.0	175.2	2,092.4 (3.7)	419.6	2,512.0 (3.7)
その他	特になし							

2 評価指標及び項目別評価

(1) 事業の進捗状況

AA・A・B・C

事業の進捗状況	単位: %				
			計画全体に対する進捗		年次計画に対する進捗
			全体計画	認可計画	全体計画
事業費割合 (うち用地費)		83% (100%)	83% (100%)	98% (100%)	98% (100%)
工種毎割合 (主要工種)		汚水処理区域(ha)の 整備面積割合 (H13年度末)	34/43 79%	34/43 79%	- -
説明	事業費の全体計画に対する進捗率として、H14年度末見込みで、全体計画及び現認可計画は83%となっている。 汚水整備面積について、H13年度末現在で、全体計画区域及び認可計画区域の43haに対しては79%の整備率、前認可計画区域の25haに対しては100%の整備率となっている。				
問題点・解決見込	特になし				
事業効果発現状況	H12年度から焼山浄化センターが供用開始され、H13年度末現在で汚水処理区域が34ha整備され利用されている。				

(2) 社会経済情勢の変化

AA・A・B・C

社会的評価	<p>全国：下水道は欠くことのできない都市の基盤整備であり、ナショナル・ミニマムとしての認識が定着している。</p> <p>県内：下水道普及率が全国31番目(H12年度末)と低く、特に町村部は市部に比べ大幅に低く整備要望が高い。</p> <p>地域：国立公園内の観光地という土地柄より、地域住民から下水道整備の要望が高まっている。</p>
予算動向	<p>国：公共事業の予算は縮減の方向となっている。</p> <p>県：公共事業の予算は縮減の方向となっている。</p>
必要性等	<p>下水道整備は、計画時も現在においても、地域の生活環境の改善及び公共用水域の改善等のため必要である。また、地域住民の下水道整備の要望は、計画時と比べ現在は高くなっている。</p>
その他	<p>特になし</p>

(3) 費用対効果分析の要因変化

AA・A・B・C

費用対効果分析	〔簡易比較法による分析〕			
		計 画 時	再 評 価 時	増 減
	費用 (C)	百万円	169.0 百万円/年	百万円
	効果 (B)	百万円	175.3 百万円/年	百万円
	B / C		1.04	
変化内容	<p>費用： 効果：</p>			
B/Cへの影響	<p>事業採択時には費用対効果分析を行っていない。</p>			

(4) コスト縮減・代替案立案の可能性

コスト縮減の可能性	<p>特になし</p>
代替案の可能性	<p>特になし</p>

(5) 評価に当たり特に考慮すべき点

住民ニーズ把握状況	<p>議会及び事業に係わる地権者及び地域住民より、事業に対する協力を得られている。また、未整備区域からの整備要望が日増しに強くなっている。</p>
環境影響への配慮	<p>当該処理区は、区域の約半分が十和田八幡平国立公園に含まれており、自然公園内水域の水質保全の観点からも、下水道整備は必要不可欠である</p>
地域特性	<p>観光名所として名高い「十和田湖」, 「奥入瀬溪流」に近い、観光地のイメージアップのためにも下水道整備は必要不可欠である</p>

3 対応方針（事業実施主体案）

総合評価	<p>継続      見直し継続      中止</p>
評価理由	<p>下水道整備に対する要望が非常に高く、事業の進捗も順調に進んでおり、効果も発揮されている。</p>
備考	<p>特になし</p>

4 公共事業再評価審議委員会意見

委員会意見	<p>対応方針（案）どおり      対応方針（案）を修正すべき</p>
委員会評価	<p>継続      見直し継続      中止</p>
評価理由	
附帯意見	